

「越前時代行列」の経済効果を踏まえた「ふくい桜まつり」への提言

藤沢ゼミ 2019 年度卒業 T.K

1. はじめに

2018 年 2 月の大雪による福井市の財政難に伴い、2019 年と 2020 年のふくい桜まつりのメインイベント越前時代行列の中止が決まった。祭りの開催には多額の事業費がかかる反面、経済波及効果により地域活性化も期待できる。本研究では、越前時代行列の経済波及効果について分析することで、祭りの効果について客観的に論じ、越前時代行列の存続の是非を問う。

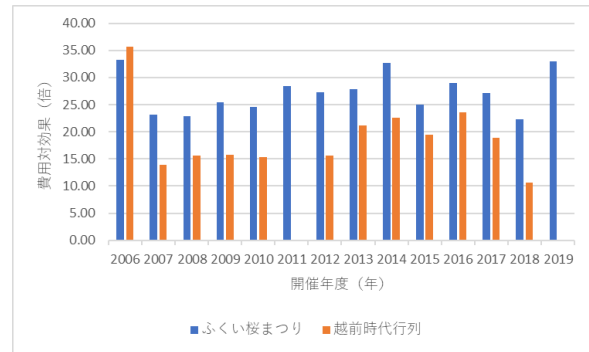


図 1：それぞれの祭りの費用対効果

2. 目的

ふくい桜まつりと越前時代行列の経済波及効果について、対象期間 2006 年から 2019 年で把握する。分析結果を踏まえて、越前時代行列は再開すべきなのか否かを考察し、祭りを活性化する上で必要な政策について提言することを本研究の目的としている。

表 1：回帰分析の結果

被説明変数：ふくい桜まつりの最終需要

	係数	標準誤差	t 値	有意確率
(定数)	961730251.0153	493896721.48	1.95	0.15
開催日数	-7725692.5867	4951156.92	-1.56	0.22
桜まつり総事業費	2.3955	5.52	0.43	0.69
時代行列総事業費	-1.0692	5.94	-0.18	0.87
桜まつり入込数	3127.7216**	658.22	4.75	0.02
時代行列入込数	5331.9540***	295.52	18.04	0.00
開催期間平均気温	-18859967.8372	8990619.71	-2.10	0.13
開花期間平均気温	-31299568.7306**	10187340.64	-3.07	0.05
開花・満開期間	-9118082.0566	6105297.11	-1.49	0.23
雨の割合	-106230102.6879	153983563.70	-0.69	0.54
休日の割合	678686158.3081	563594921.73	1.20	0.31

調整済み決定係数=0.993 ***：1%有意 **：5%有意

3. 内容と方法

先行研究の株式会社荘銀総合研究所 (2007) 「東北 6 大祭りの経済効果」を参考に、観光消費額や入込客数に関するデータを収集し最終需要を求めた。この最終需要を福井県の産業連関モデル式に投入した。

さらに、最終需要に関する詳細な考察を行うために、最終需要を被説明変数とする回帰分析を行った。回帰モデルは、以下のとおりである。

$$Y = \alpha + \sum \beta_i X_i + \varepsilon$$

4. 結果と考察

産業連関分析の結果から、費用対効果 (本研究では、生産誘発額を総事業費で割ったものとする。) は図 1 のようになり、大きな経済効果が見られた。しかし、時代行列が行われなかったからといって桜まつりの費用対効果が大きく落ち込むというわけではなかった。また、部門別波及効果を見ると、多い順から「商業」、「運輸・郵便」、「対事業サービス」に大きな効果が見られた。

回帰分析の結果は、表 1 のようになった。入込数や気温が有意となった。

5. おわりに

産業連関分析から、これらの祭りには大きな経済波及効果があることがわかった。また、時代行列に関しては、財政難の中無理をして開催するほどではないが、いずれ再開することが地域活性化のためにも望ましいと思われる。そして、入込客を増やすような工夫を行うことで、最終需要が増加し、さらに経済波及効果を高めることに繋がることが示唆された。

<参考文献等>

- ・福井市統計書 観光客入込状況
- ・福井県観光客入込数 (推計)
- ・気象庁 気象データ、さくらの開花日・満開日
- ・福井県経済波及効果分析ツール (37 部門)